

ケアマネ通信



第23号
2025
Mar.

研究会運営委員会

『第22回 神奈川県介護支援専門員研究大会』にご参加ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。今年度は開催地域の秦野市介護支援専門員協会、いせはら介護支援専門員協会、そして神奈川県介護支援専門員協会のメンバーで運営委員会を立ち上げ、一年間準備を進めて参りました。今年度のテーマは、昨今の介護支援専門員を取り巻く多様な社会情勢、その対応に求められる介護支援専門員の専門性とは何か。その進むべき道を、秦野・伊勢原の丹沢大山にちなみ「一步一步登るケアマネの山」といたしました。研究発表、基調講演、そしてパネルディスカッションを通じて、この山を登るためのスタンス、身につけるべきスキル、そしてモチベーションを高めるために何が必要であるかを振り返り、学ぶためのプログラムを考えました。

今回の研究大会が「ケアマネの専門性」、そして「ケアマネの魅力」を今一度考える一助になっていただければ幸いです。

研究会運営委員会 委員長 岩本 朋子

目次

第22回 神奈川県介護支援専門員研究大会	2	人生会議 in 鎌倉	6
ケアマネあるある	3	インフォメーション	8
委員会紹介（法定研修等企画部会）.....	4	編集後記	8
ケアマネリレーコラム	5		

第22回

神奈川県介護支援員専門員研究大会

令和7年2月1日（土）、秦野市保健福祉センターにて、「令和6年度 第22回 神奈川県介護支援専門員研究大会」が開催されました。今年度のテーマは『一步一步登るケアマネの山』で、秦野市介護支援専門員協会と、いせはら介護支援専門員協会の共同開催により、研究発表や基調講演、パネルディスカッションが行われました。

研究発表では、秦野市介護支援専門員協会が8年前から協力している、市民向け講座などを通じた終活イベント「ハッピーライフフェスタinはだの」で、医療・介護に限らない弁護士や司法書士などとの多職種連携の取り組みが紹介されました。また、秦野市主任ケアマネ部会によるケアプランの自己点検ガイドを通じたケアマネの質の向上についての取り組み、伊勢原市の小規模多機能型居宅介護における虐待事例を通じた権利擁護の対応の発表、そして秦野市介護支援専門員協会による「ケアマネジャー業務を取り巻く諸問題」では、専門性向上を目指したアンケート調査で見たケアマネの課題についての発表、さらには伊勢原市での8050問題を含む「福祉トレンドど真ん中」と題された、支援困難事例へのチーム支援についても発表がありました。

基調講演では、臨床ソーシャルワーク研究所代表の衣笠一茂様が「ケアマネの山を登るための備えとは ～多様化社会においてケアマネに必要なスキルとモチベーション～」をテーマに講演されました。「地域共生社会」とは何か、事例を通じて自助・公助・共助・互助のネットワークづくりについて学びました。ケアマネは介護保険のサービスをつなげるだけでなく、利用者を取り巻く環境を整備する視点も必要という認識を深めることができました。



その後のパネルディスカッションでは、訪問看護や訪問診療、通所介護、神奈川県立保健福祉大学の非常勤講師など、さまざまな立場の4氏がパネリストとして登壇されました。

テーマは「今ケアマネに求められる専門性とは ～ケアマネとして出来ることは何か～」で、パネリストの皆様から、多職種から見たケアマネについて、情報共有や信頼関係のあり方など、様々なご意見をいただきました。何も知らない人に、ケアマネの専門性をどう説明するかという点でも、構造化と言語化の難しさを感じました。

今回のテーマでもあったように、「ケアマネの専門性とは何か」を、それぞれが考えるきっかけになる研究大会となりました。ケアマネの前には多くの“山”があります。昨今の課題とされる業務のあり方や処遇の改善、ケアマネの質と社会的地位の向上なども、ケアマネが登る一つの“山”だと思います。大きな“山”を前に一步一步前進していくには、ケアマネの専門性を共に考え、声を上げていくための繋がりが不可欠なのだと、改めて感じました。

広報出版委員長 佐藤

ケアマネあるある

～2つのパソコン画面で
業務の効率化&ペーパーレス化！～



パソコンに、もう1つモニターをHDMIケーブルなどで接続し、ディスプレイの設定を「表示画面を拡張する」にすると、パソコンの画面を2つ使用できるようになります。これにより、業務の効率化とペーパーレス化が行えます。

例えば、ケアプランを作成する際、印刷したアセスメント票などを見ながら入力することが多いと思いますが、画面を2つ使用できると、片方の画面でアセスメント票のファイルを表示させながら、もう片方の画面でケアプランを入力することができます。これにより紙を使わずに作業が進められ、アセスメント票の文言をケアプランへ簡単にコピー・貼り付けができ、効率的にケアプランの入力ができます。

またオンライン会議でも、正面のモニターに会議画面を表示し、もう一つの画面に会議資料のファイルを表示することができます。これにより、会議中に資料を確認しながら発言することができ、スムーズな進行が可能です。

さらに書類の作成も、インターネットや生成AIで調べものをしながら行うことで、文書作成を効率化できます。例えば、リサーチしながらレポートを作成する際に、片方の画面で情報を検索し、もう片方の画面で文書を作成することができます。

パソコンモニターは、リサイクル品であれば数千円で手に入れることができ、小型テレビでも代用できます。使用していないモニターや小型テレビがございましたら、一度お試しいてみてはいかがでしょうか。より快適な作業環境を整えられますよ！

広報出版委員（S）

委員会紹介

法定研修等企画部会 部会長 早野 真理



令和6年度のファシリテーター研修は、4月～10月の期間に全5回（STEP 1からSTEP 5）ハイブリッドの開催で、延べ261名の方に受講をいただきました。「ファシリテーターを目指したい」「実践のスキルアップを目指したい」「自分自身のケアマネジャー業務の振り返りをしたい」「後輩の育成に役立てたい」等、受講の目的はそれぞれですが、皆さん真剣に取り組まれており、学びを深められたとの感想を多く頂きました。

研修は、令和2年度より「STEP 1からSTEP 5」までの段階的な研修と、現任者向けのフォローアップ研修を実施してきました。段階的な研修として、STEP 1「導入・ファシリテーターの理解」、STEP 2「基本知識の定着」、STEP 3「基本知識の応用」、STEP 4「指導者としての知識」、STEP 5「演習実践まとめ」など、それぞれのSTEPに法定研修で導入されている事例のテーマや、ツールを入れた内容にしています。STEP 5では「実践研修」として、受講生の皆さんがファシリテーター役になり、演習を行いました。また、現任者向けのフォローアップ研修においては「研修後の振り返り」「研修前の準備」「新カリキュラム特別研修・適切なケアマネジメント手法」等、その年度のガイドラインに沿った構築を行ってきました。

令和6年度の研修では「受講生への応援メッセージ」として、部会員が制作した動画を流した心温まる場面もありました。

そして令和6年10月に、研修の取り組みを「第18回 日本介護支援専門員協会全国大会 in ながの」において、『生涯研修体系構築にかかる演習ファシリテーター育成のあゆみ』として発表させていただきました。

平成26年度の介護支援専門員法定研修ガイドラインにおいて、講義・演習が一体科目となり、演習ファシリテーターの役割の重要性が高まりました。部会では、育成と向上を目指して研修を構築し、実施しています。

部会員一同「受講生の皆さんが、実践につながるより良い研修を提供したい」という意識を高く持ち、研修の構築・準備を行っています。そして、今後も多くの皆さんに受講していただけるように、さらにブラッシュアップした研修を行っていきたいと考えております。

最後に、平成28年度から8年間の歩みを振り返り、これまで研修の構築運営にご尽力頂いた皆さまへの敬意を表したいと思います。次年度も、皆さまの受講をお待ちしています。

～神奈川県で働くケアマネジャーが日々思ったことなどを綴っていきます～

ケアマネリレーコラム

JA デイサービスセンターあいかわ 駒井 克行

皆さま、こんにちは。あかりの森ケアプランセンターの伊藤さんより、バトンを引き継ぎましたJAデイサービスセンターあいかわ（愛川町にあるデイサービス併設の施設です。）の駒井と申します。

神奈川県介護支援専門員協会では、ケアマネジメント向上研修部会・法定研修等企画部会に所属して活動をしておりますので、研修等でご一緒させて頂いた方もいらっしゃるかと思います。改めて少し自己紹介を。埼玉県飯能市出身、現在は町田市で妻・子供3人と一緒に生活をしています。大学卒業後、現在の法人に入職。在支に配属され、1年後に包括に移行、H26年に現事業所に異動となり、ケアマネ業務に励んでおります。

突然ですが、良いケアマネとは何かと聞かれたら、皆様はどう答えますか？私は「+の影響力が発揮できるケアマネ」と答えるでしょう。今回は日々の業務の中で感じている「影響力」という言葉。このことについて触れていきたいと思えます。

影響力とは人の心を動かすエネルギーであり、高めていくことはもちろん、発揮（+にも-にもなるので+の方向性での発揮が必要）していくことが重要だと感じています。ケアマネとして利用者に向き合う。そこには支援者としての関わりが発生する形になりますが、目には見

えない影響力という力も発生します。もちろん、利用者だけではなく家族や各サービス事業所等にもこの力が発生していく形になり…とても重要です。ですから、この影響力を鍛える・磨く、なおかつプラスの方向性で発揮することが必要不可欠になります。

どのような形で鍛える・磨くのか、色々な手段があると思います。研修に参加する、専門書を読むといったことも一つの手段でしょう。自分には影響力があるのだと感じるところから始めるのも良いでしょう。肝心なのは「影響力」が自分にはあるということを自覚しながら、鍛え磨くことだと思います。研修も一つの手段です！ケアマネジメント向上研修部会・法定研修等企画部会が企画している研修も、皆様の影響力を鍛え・磨くことに力添えができますので、ぜひこの機会に研修に参加してみるのはいかがでしょうか？

「迷ったら辛い方を選べ」、人が成長するタイミングになります。手が届き頑張ることができるぐらいの辛さを選択するのがコツです。この研修大変そうだなあどうしようかなあと迷った時は、ぜひこの言葉を思い出して研修に参加してみましょう。そして一緒に影響力を鍛え磨きましょう！人の心を動かすエネルギー、マスターしていきたいものですね！！

人生会議 in 鎌倉

～お寺で人生の最期を考える勉強会～

鎌倉市では、古都の風情あふれる街並みの中、建長寺や禅居院の厳かなお堂で、医療・福祉関係者や地域住民も参加して、一風変わった人生会議の勉強会が行われています。この勉強会は、かまくら地域介護支援機構・ターミナルケアを考える会in鎌倉の皆様の主催で、臨床宗教師である禅居院の山名田住職や、深沢中央診療所所長の宮下先生からご講義いただき、人生の最期について深く考える、貴重な機会となっています。

この勉強会は11月24日(日)と12月15日(日)の2日間行われ、1日目の建長寺では、建長寺ご住職の体験談で、禅居院の山名田住職より臨床宗教師としてのお話をいただき、看取りにおける主治医と家族とのやりとりをロールプレイで行いました。また、宮下先生のご家族お看取りまでの体験話や、参加者からの質疑応答という内容でした。

2日目の禅居院では、宮下先生から鎌倉市版の「意思表示書」について、説明をいただきました。老衰や認知症・がんなどが進行し、終末期の状態を迎えたときに、胃ろうや点滴・人工呼吸器・医療用麻薬・ステロイド剤の使用などの治療を勧められた場合、治療を受けたいか、受けたくないかを実際に自分で考え、意思表示書に書いてみるという内容であり、“治療を受けるとどうなるか”や“治療を受けないとどうなるか”を知り、自分自身の選択がどのような影響を及ぼすか、理解することができました。

例えば、食事や水分が経口摂取できなくなり、点滴を勧められた場合、最初は「終末期に、もう点滴なんてしなくても…」と思うかもしれません。しかし、脱水症状が進行すると、喉の渇きで声が出づらくなり、会話ができなくなってしまう場合があることを知ると、考えやイメージが変わることもあると思います。このように、治療を受けるか受けないかの選択は、正しい知識と情報がなければ難しく、ケアマネジャーだけでは得られない知識や情報もあると思います。

人生の最期をどう迎えたいか、意思表示しておくことは、これからの多死時代の大きなテーマです。今回の勉強会の冒頭、山名田住職の「最期まで自分らしく生きるためには、自分らしさを自分から発信できることが大切」という言葉が、とても印象的でした。自分らしい選択ができるよう支援するためには、私たちケアマネジャーも正しい知識と情報を得ながら、支援者同士が連携していくことが重要であることを再認識しました。

今後もこのように、色々な地域の取り組みを紹介したいと思います。皆様からも「私たちはこんな取り組みをしている」などございましたら、ぜひアンケートでお寄せください。

広報出版委員長 佐藤



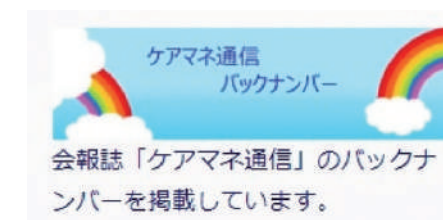
■ケアマネ通信 アンケートご協力をお願い

今後のケアマネ通信がより良いものになるよう、アンケートを実施しております。当協会ホームページ「ケアマネの森」のトップページ「ケアマネ通信バックナンバー」より、アンケート（Google フォーム）にご協力ください。

<https://www.care-manager.or.jp/iinkai/kouho.html>

お手持ちのスマートフォンからも、ご回答いただけます。

会員の皆さまからのご意見・ご要望をお待ちしています。



■奥能登豪雨災害支援募金のお礼

本会では「令和6年（2024年）奥能登豪雨」による能登半島での災害に関しまして、私たちにできる被災地・被災者支援として、募金活動を行って参りました。ここに奥能登豪雨災害支援募金のご報告とお礼を申し上げます。

本会から義援金100,000円を石川県介護支援専門員協会へ、皆様からお預かりした募金30,019円を、日本赤十字社を通じて被災地へ寄付をさせていただきました。

ご協力ありがとうございました。

一般社団法人 神奈川県介護支援専門員協会
理事長 諏訪部 弘之

■メールアドレス登録のお願い

会員の皆様へ、当協会主催研修等の情報をメールでご案内しています。

メールアドレスの登録がお済みでない方は、当協会ホームページ「ケアマネの森」のトップページ「メールアドレスご登録のお願い」より、ご登録をお願い致します。

メールアドレスを変更したい方も、こちらから変更をおこなってください。

本会会員の皆様へ 今すぐ登録!!
メールアドレス
ご登録のお願い

編集後記

最近介護業界でもDXやICT化が叫ばれ、私たちケアマネジャーの分野でもこの傾向は強く、色々な機器やシステムの導入を進めている事業所も多いのではないのでしょうか。

しかし、今号の「ケアマネあるある」の記事でお示したように、私たちの周りにはある資源を有効に活用することで、業務の効率化が断然図られる…なんてことはないのでしょうか？

日々の業務に忙殺され、目の前の仕事で精一杯、困っていることも考えられなくなり、現状維持が当たり前。そのような声を沢山耳にします。

私たちケアマネジャーは、アセスメン

トを大事に活動していますが、利用者アセスメントだけではなく、先ずはご自分の身の回りもアセスメントし、資源の有効活用を活かせるような新たな気づきを得て、今までの作業の進め方について、改めて足もとを見つめ直してみませんか？

皆さまの周りにはアセスメントに基づく発想の転換で、有効に活用できる資源が山の様にあるかもしれません。DXやICTも重要ですが、工夫一つで私たちの業務効率を各段に引き上げてくれる…そのような固定観念に囚われず、柔軟な発想を持ち合わせていきたいですね！

広報出版委員 木内

Contact

一般社団法人神奈川県介護支援専門員協会 事務局
〒231-0023

横浜市中区山下町 23 番地 日土地山下町ビル 9 階
TEL 045-671-0284 FAX 045-671-0287

E-mail jimu@care-manager.or.jp

H P <https://www.care-manager.or.jp/>

◎編集 / 発行

一般社団法人

神奈川県介護支援専門員協会

広報・出版委員長 佐藤 明



Facebook
はこちら↑



ホームページ
ユーザーはこちら↑